

新島襄と良心

—— その生涯をたどる ——

1

同志社をどのように案内する？

- ・「同志社」という名前の由来は？
- ・なぜ、ここにあるのか？
- ・建物の特徴（レンガを基調とする）。
- ・「良心碑」とは？

2



3



4

読みやすい参考文献

- 本井康博
『新島襄と建学精神——「同志社科目」テキスト』、2005年（定価500円、生協書籍部、同志社エンタープライズで販売）。
- 本井康博「新島襄を語る」シリーズ（全10巻）



5

- ・ 1日目～5日目——新島襄の言葉（1）～（261）
- ・ 6日目——新島襄の評伝（1）～（52）
 - ・ 新島の人柄や思想の輪郭を巧みに描写している知人・友人たちの言葉を集めています。最近話題の渋沢栄一も含まれています。
- ・ 7日目——同志社エピソード（1）～（52）
 - ・ 新島の誕生から現代に至る同志社史の重要エピソードを紹介しています。



6

マンガ・DVD

- 能田 茂 (著), 本井 康博 (監修) 『マンガで読む新島襄』（日・英・韓）同志社大学。
- NHK大河ドラマ「八重の桜」DVD BOX（3集）



7

YouTube動画



8

ハリス理化学館 同志社ギャラリー



9

新島襄を語る視点

- 新島理解は時代の影響を受けてきた
- 戦中：愛国者としての新島襄（特に徳富蘇峰）
- 戦後：民主主義者・自由主義者としての新島襄
- 1990年代以降：「良心教育」の創始者としての新島襄

10

愛国者としての新島襄

「凡そ先生程日本を愛した人は無い。同志社を創ったのも、日本を愛したから創ったのである。日本を救はんが為に創ったのである。」

徳富蘇峰「新島精神と日本精神」（徳富蘇峰『新島襄先生』32頁）



11

新島先生永眠50周年記念事業（1940年）

- 「新島先生が明治の実利主義的大勢に抗して勇敢に標榜せられた精神主義は、**儒教**によって洗練された我国の伝統的精神主義を、**基督教**によつて深めたものであった。」（魚木忠一・講演「教育の一元流として見たる新島先生」、『同志社百年史』1169頁）
- 【参考】「^{しか}而してかくのごとき教育は、決して一方に偏したる智育にて達し得べき者にあらず、また既に人心を支配するの能力を失うたる**儒教主義**の**能くすべき所にあらず**、ただ上帝を信じ、真理を愛し、人情を敦くする**基督教主義**の道德に存することを信じ、^{おもむき}基督教主義をもって徳育の基本と為せり。吾人が世の教育家とその趣を異にしたるもここに在り。」（「同志社大学設立の旨意」1888年、『新島襄 教育宗教論集』21-22頁）

12

「良心教育」の起源

- 新島襄は「良心教育」という言葉を一度も使わなかった。
- 新島襄は「良心」という言葉を慎重に使った。

西暦2000年に学校法人同志社は創立125周年を迎えます

1875年11月29日、創立者新島襄の熱き想いから同志社英学校を開校して以来、120余年にわたり同志社は「良心教育」を建学の精神として、多様な人材を世に送り出してきました。

そして西暦2000年には創立125周年を迎えます。

学校法人同志社では、1999年11月から2000年11月を125周年記念事業期間として、式典、シンポジウム、記念講演会、ホームカミングデーなど様々な記念事業や催しを行う予定です。



125周年記念シンボルマーク

ONE PURPOSE

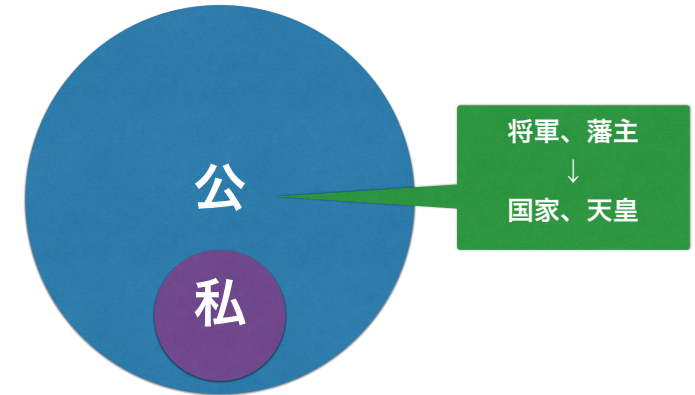
同志社大学通信118号

1999年4月1日（4・6・10・12月4回）発行

発行 同志社大学 広報課
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL. 075-251-3120 FAX. 075-251-3080
E-mail jikoho@mail.doshisha.ac.jp

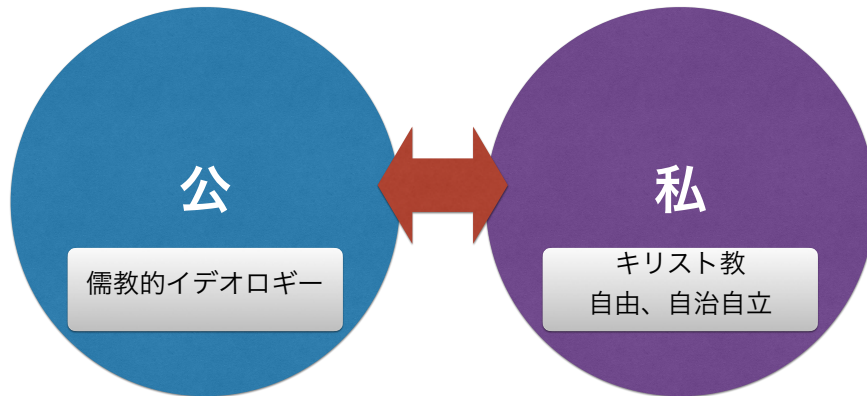
13

新島のアイデンティティの変化



14

新島のアイデンティティの変化



15

新島 襄の生涯

- 「良心」を考えるロール・モデルとしての新島 襄
- 第1ステージ：「新島 七五三太（しめた）」の時代
- 第2ステージ：「ジョゼフ・ニイシマ」の時代
- 第3ステージ：「新島 襄」の時代

16

第1ステージ

「新島 七五三太」の時代

1843～1864年

17

新島の誕生

- 1843年、江戸の安中藩邸で生まれる。
- 上州（群馬県）系江戸っ子
- 21歳まで藩邸内で暮らす。

18

サムライの子として

- 父・民治は安中藩士、職務は祐筆（書記）
- 新島は「サムライ」の子。「サムライ」としての自己理解を持つ。
- 藩邸での生活
- 一辺が約125メートルのほぼ正方形の中

19

旅の経験（1）

- 安中への旅
- 1861年、19歳のとき
- 藩主の護衛として

20

旅の経験（２）

- ・玉島（現在の倉敷市）への航海
- ・1862年、20歳のとき
- ・自由を満喫する。
- ・「家出」「脱国」願望が高まる。

21

密出国への刺激を与えた書物（１）

- ・『連邦志略』
- ・中国に派遣されていたアメリカ人宣教師（ブリッジマン）が漢文で書いた。
- ・大統領選挙を知り「脳がとろけ出そう」になるほど驚嘆。

22

密出国への刺激を与えた書物（２）

- ・『ロビンソン・クルーソー物語』
- ・「冒険」への野望を駆り立てられる。
- ・その他の書物
- ・キリスト教にも触れる。

23

密出国（1864年）

- ・快風丸への乗船
- ・出港準備は一週間。
- ・一年間の函館留学が名目。

24

函館から上海へ

- ・ニコライ神父（ハリストス正教会）との出会い
- ・ベルリン号（セイヴォリー船長）に乗船。

25



26



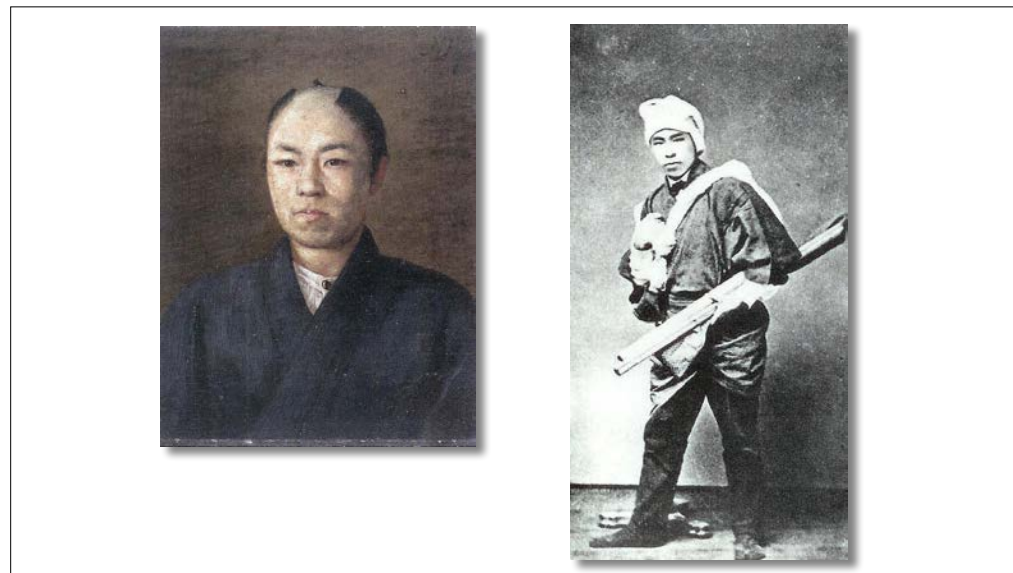
27



28



29



30

上海からボストンへ

- 上海からボストンへ
- ワイルド・ローバー号（テイラー船長）に乗船
- 太刀を船長に船賃として渡し、小刀は買ってもらった（漢訳聖書を買うため）。
- 「ジョー」（Joe）と呼ばれる。



31



32

第2ステージ

「ジョゼフ・ニシマ」の時代

1865～1874年

33



34

ボストンへ

- ボストン到着後（1865年7月）、行き先がなく船底で途方に暮れる。
- テイラー船長が船主のハーディーに新島を紹介する。

35

ハーディーとの出会い

- ハーディー宛の手紙
 - 「日本脱出の理由」、『新島襄 自伝』16-27頁
- ハーディーは新島の名前を「ジョー」から「ジョゼフ」に改称する。
- 以降、新島は Joseph Neesima と自称する。



36

アメリカでの学び (1)

- ・フィリップス・アカデミー時代
- ・1865～1867年。
- ・1866年、アンドーヴァー神学校付属教会で洗礼を受け、クリスチャンになる。

37

アメリカでの学び (2)

- ・アーモスト大学時代
- ・1867～1870年



38

Help Log in

Search:

Campus directory Find alumni Site map

Go directly to...

Home > About Amherst > Amherst History

A History of Amherst College

In 1821 a broad group of local people in and around Amherst worked together to create an institution of higher learning for the education of indigent young men of piety and talents for the Christian ministry (as the call for donations to the initial endowment, the Charity Fund, phrased it).

About Amherst
Amherst at a Glance
Amherst College Profile
Amherst History
Amherst College Press
Amherst Timeline
Amherst's Philosophy
Corporation & Trustees
Frequently Asked Questions
Mission of Amherst College
President's Welcome
Virtual Tours
Visiting Amherst

Noah Webster, already well known from his textbooks and dictionaries, played a vital role in fundraising and in shaping the institution. He had served as a trustee of Amherst Academy since its incorporation in 1815, and was president of its board of trustees during the critical 1820-21 period, when Amherst College was formed.

Edward Jones, Class of 1826

Noah Webster

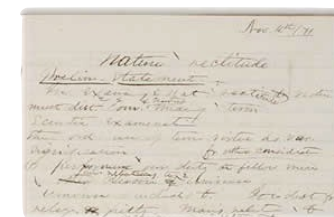
Joseph Hardy Neesima, Class of 1870

Webster had been on the committee formed in 1810 to buy the Amherst Academy building to use as a

39

アメリカでの学び (3)

- ・アンドーヴァー神学校時代
- ・1870年～1874年
- ・アメリカン・ボードと一体の学校。
- ・在学中「岩倉使節団」と出会う。
- ・一年間、休学してヨーロッパへ。



40

ヨーロッパ視察

- 教育視察
 - 木戸孝允、田中不二麿らと出会う。
- ベルリンで報告書作成
 - 後に文部省から『理事功程』として出版される。

41

宣教師として帰国

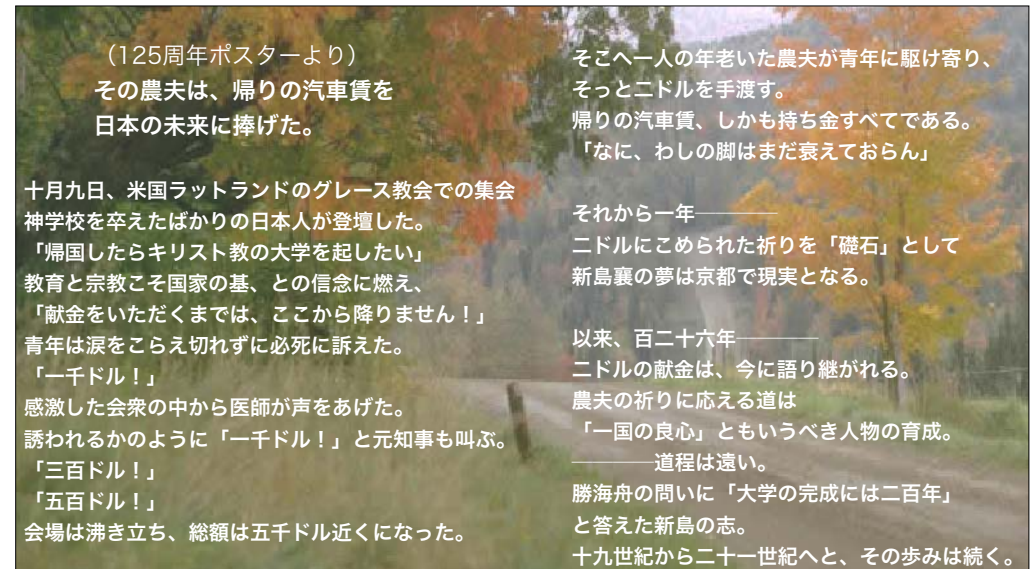
- 準宣教師に
 - 1874年、アメリカン・ボードから任命される。
- 帰国前の改称
 - Joseph Hardy Neesimaに

42

ラットランド演説

- キリスト教の学校を
 - 日本にキリスト教の学校を作りたいという涙ながらの訴えをする。
- 5000ドルの献金を得る。これが同志社の開校資金となった。

43



(125周年ポスターより)

その農夫は、帰りの汽車賃を
日本の未来に捧げた。

十月九日、米国ラットランドのグレース教会での集会
神学校を卒えたばかりの日本人が登壇した。
「帰国したらキリスト教の大学を起したい」
教育と宗教こそ国家の基、との信念に燃え、
「献金をいただくまでは、ここから降りません！」
青年は涙をこらえ切れずに必死に訴えた。
「一千ドル！」
感激した会衆の中から医師が声をあげた。
誘われるかのように「一千ドル！」と元知事も叫ぶ。
「三百ドル！」
「五百ドル！」
会場は沸き立ち、総額は五千ドル近くなった。

そこへ一人の年老いた農夫が青年に駆け寄り、
そっと二ドルを手渡す。
帰りの汽車賃、しかも持ち金すべてである。
「なに、わしの脚はまだ衰えておらん」

それから一年——
二ドルにこめられた祈りを「礎石」として
新島襄の夢は京都で現実となる。

以来、百二十六年——
二ドルの献金は、今に語り継がれる。
農夫の祈りに応える道は
「一国の良心」ともいべき人物の育成。
——道程は遠い。
勝海舟の問いに「大学の完成には二百年」
と答えた新島の志。
十九世紀から二十一世紀へと、その歩みは続く。

44

第3ステージ

「新島 襄」の時代

1874～1890年

45

帰 国

- 名前の日本表記
 - 在米中、「約瑟」（ジョゼフ）
 - 新島 譲 → 新島 襄
- 安中でキリスト教伝道
 - 安中教会の誕生、湯浅治郎の働き

46

大阪へ（1875年）

- 大阪のゴードンのもとへ
 - 神戸のデイヴィスの賛同を得て、キリスト教学校設立を目指す。
- 大阪での挫折
 - 学校設立が頓挫する。

47

京都での出会い

- 山本覚馬 との出会い
 - 「私塾開業願」を府に提出
 - 新島と山本が発起人
 - 山本が「同志社」と命名



48

京都での開校

- 同志社英学校の設立
 - 1875年11月29日（教師2名、生徒8名）
 - 現在の「新島旧邸」「新島会館」の場所
- 翌年正月、山本八重と結婚
 - 八重は戊辰戦争の際、会津若松城に籠城し「西軍」と戦闘

49



2013年、NHK大河ドラマ「八重の桜」



50

今出川校地の始まり

- 1876年、校地を移転
- 同志社への攻撃
 - 仏教徒や保守的な市民からの激しい攻撃
- 「熊本バンド」の入学

51



52

新島の晩年の関心（１）

- 教会合同運動
 - 長老派と会衆派の合同運動に対し、新島は批判的な立場を取った。
 - 「自由教育」「自治教会」が新島のモットーであった。

53

新島の晩年の関心（２）

- 同志社大学設立運動
 - キリスト教主義に立脚する総合大学を設立することは、新島の「宿志」であった。
 - 募金運動、欧米旅行
 - 1886年、宮城英学校（同志社の分校）を設立。

54

新島の最期

- 1889年、関東での募金活動
 - 前橋で倒れ、神奈川県大磯で療養。
- 1890年1月23日死去（46歳）
 - 遺言（『新島襄 自伝』400-402頁）
 - 「**倜儻不羈**なる書生を圧束せず、」



55



56

新島の葬儀

- 生徒たちの出迎え
 - 新島の遺体が京都駅に着くのを深夜まで待つ。
- 若王子の墓地へ
 - 葬儀の後、生徒たちは、若王子山頂の墓地まで棺を交互に担いでいく。

57



58

冒険的生涯

良心とは？

てきとう ふ き
倜儻不羈

59